

3. 人文科学府

(1) 人文科学府の教育目的と特徴	3-2
(2) 「教育の水準」の分析	3-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	3-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	3-11
【参考】データ分析集 指標一覧	3-13

(1) 人文科学府の教育目的と特徴

1. 人文科学府は、人間文化や人間性を深く理解することを目指すとともに、そうした理解に基づいて現代社会の諸領域において創造的な貢献を果たすことができる有為な人材を養成することを教育目的とする。本学府は、人間文化の根本原理を究める（人文基礎専攻）、国際的な交流や相互理解に必要不可欠な知識を提示できる（歴史空間論専攻）、言語・言語文化について、多様なあり方を究める（言語・文学専攻）という教育理念を掲げ、各専攻の求める学生像を明示している。
(別添資料7303-00-1_人文科学府3ポリシー（アドミッションポリシー）)
2. 本学府の組織の特徴は、専門分野における高度な専門知識の育成のために実務経験を有する教員や、教育の国際化を達成するために世界の諸文化の多様性に合わせた多様な教員を配置していることである。また、入学者の特徴は、広く内外に優秀な人材を求めて、古典の正確な読解、論理的思考力と独創性、根本から思索する能力を備えた学生や多くの留学生を受け入れていることである。
3. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「自ら学ぶ姿勢や態度、分野横断的な俯瞰力、課題発見・解決能力を育む学部・大学院（学府）教育を展開し、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材（アクティブ・ラーナー、骨太のリーダー）を育成する。」を踏まえている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針
((再掲) 別添資料 7303-00-1_人文科学府3ポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針
((再掲) 別添資料 7303-00-1_人文科学府3ポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料 (別添資料 7303-i3-1~2)
(別添資料 7303-i3-1_ナンバリングコード)
(別添資料 7303-i3-2_人文科学府規則)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
(別添資料 7303-i3-3_人文科学府自己点検・評価委員会内規)
- ・ 研究指導、学位論文 (特定課題研究の成果を含む。) 指導体制が確認できる資料
(別添資料 7303-i3-4_人文科学府博士後期課程学生の研究指導に関する内規)
(別添資料 7303-i3-5_人文科学府履修細則)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学府全体の教育理念、各専攻および各専門分野の教育プログラムに即して、講義科目（「特論」）、演習科目（「研究」）、現代文化論、大学院共通教育科目、論文指導、博士演習（博士後期課程）を類別・階層化し、修士課程から博士後期課程にいたるまで、段階的かつ一貫的なカリキュラムを提供している。

修士課程で開講される「現代文化論A～D」では、一部を複数の教員によるオムニバス方式で行い、より多様な観点から文化理解の教育を図っている。

また、歴史空間論専攻には、修士課程における分野横断的な教育カリキュラムとして歴史学拠点コースを設置している。[3.1][3.5]

（別添資料 7303-i3-6_学生便覧）

（別添資料 7303-i3-7_文学部人文科学府パンフレット 2019）

（別添資料 7303-i3-8_シラバス現代文化論B・C）

- 持続可能性に関する広範な知識を有し、社会的な課題に関する専門・学際科学の成果を統合した新たな学識を兼ね備え、国際社会で活躍できるリーダーの養成を行うため、本学の博士後期課程教育リーディングプログラム「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」に参画している。[3.2]

（別添資料 7303-i3-9_九州大学博士後期課程教育リーディングプログラム「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」）

- 本学府人文基礎専攻の修士課程および博士後期課程に、国際コース（英語による授業等により学位取得可能な教育課程）として、広人文学コースを置いている。当コースは、日本文化を英語で研究することができる International Master's Program (IMAP) および International Doctorate (IDOC) を提供している。[3.3]

（（再掲）7303-i3-7 文学部人文科学府パンフレット 2019）

- 高度汎用的な知識・技術・態度（「ハイエンド・リテラシー」）を涵養する大学院基幹教育科目を開いている。

修士課程、および博士後期課程の標準的なスケジュールを用意するとともに、博士論文の規準作成条件を専門分野ごとに明示している。[3.4]

（別添資料 7303-i3-10_大学院基幹教育科目一覧）

（（再掲）別添資料 7303-i3-6_学生便覧 72-73 頁）

（別添資料 7303-i3-11_博士論文作成条件）

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 7303-i4-1_文学部・人文科学府授業日程)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 7303-i4-2_人文科学府シラバス)
((再掲) 別添資料 7303-i3-6_学生便覧)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 7303-i4-3_協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(2016～2018年度))
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 7303-i4-4_人文科学府 大学等におけるインターンシップに関する調査)
- ・ 指標番号5、9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 各研究室が、研修所等を利用した夏合宿や、社会調査等のフィールドワークというかたちで教室外学修を継続的に行っている。2016年に文学部学生が亡くなった屋久島事故の反省を踏まえ、学外での研修授業における安全性の確認、届け出制度を徹底している。[4.1]
(別添資料 7303-i4-5_教室外学修プログラム)
(別添資料 7303-i4-6_野外・学外実習の安全指針の資料)
- 2016年度より開講されている九州大学文学部・朝日新聞提携科目「ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ」に関連して、朝日新聞社における本学府生のインターンシップ枠を得ている。[4.2]
- 本学の「教育の質向上支援プログラム (NEEP)」の取り組みとして、2019年度より、本学において運用されている e-learning システムである Moodle の使用率を高めるべく、活用手法の開発を行っている。具体的には、少人数クラスにおいても e-learning システムの利用価値を感じられるような手法を獲得するために、コアチームを立ち上げ、教員と学生とのディスカッションを通じてカスタマイズを進め、新たな授業方法を創成することを目指している。[4.3]
(別添資料 7303-i4-7_NEEP についての資料)

九州大学人文科学府 教育活動の状況

- 本学府は、専攻学生を対象とする多くの「演習」や「実習」を提供しており、専門分野ごとの少人数授業が実現している。また専任の外国人教員を 2016 年度には 2 名だったのに対して 2017 年度から 2018 年度にかけて 5 名に増やすことで、学府において英語で受講できる授業をより充実させた。さらに、学府は英語以外の外国語（フランス語、ドイツ語、中国語など）を用いた授業を多数提供している。教材に現代日本語以外の言語が含まれる授業は、全体の約 50% に達する。

[4.4]

(別添資料 7303-i4-8_人文科学研究院教員配置表 (2016~2019))

- 「論文指導」と「博士演習」という授業を設け、修士論文および博士論文の提出予定者への指導を継続的に行っている。これに加えて、留学生に対しては、日本語による論文作成を援助する補助金制度を拡充してきた。また、専門分野ごとに学位授与基準を明文化している。[4.5]

((再掲) 別添資料 7303-i3-11_博士論文作成条件)

(別添資料 7303-i4-9_日本語による論文作成を援助する補助金制度 (申合せ))

(別添資料 7303-i4-10_外国人留学生研究支援事業に係る謝金支給要項)

(別添資料 7303-i4-11_外国人留学生研究支援事業に係る謝金支給に関する申合せ)

- 持続可能性に関する広範な知識を有し、社会的な課題に関する専門・学際科学の成果を統合した新たな学識を兼ね備え、国際社会で活躍できるリーダーの養成を行うため、本学の博士後期課程教育リーディングプログラム「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」に参画している。[4.6]

((再掲) 別添資料 7303-i3-9_九州大学博士後期課程教育リーディングプログラム「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」)

((再掲) 別添資料 7303-i3-6_学生便覧)

- 本学府では、平成 18 年度に「人文科学府長賞」を創設し以来、毎年、その年に提出された優秀な博士論文、修士論文を顕彰している。人文科学府長賞は (1) 大賞と (2) 優秀賞から成る。(1) は優秀な博士論文 (甲) を授与対象とし、(2) は優秀な修士論文を対象とする。その受賞者および学会関連の受賞者をホームページで発表している。なお、人文科学府長賞の大賞を受賞した優秀な博士論文は、外部の審査員による査読の上、ほぼ毎年「人文学叢書」として九州大学出版会から出版している。[4.7]

(別添資料 7303-i4-12_人文科学府長賞)

- 本学府では、教育のグローバル化を推進するため、日本人学生が外国人留学生の学位論文等を校閲、校正した場合に、謝金を支給している。((再掲) [4.5])

((再掲) 別添資料 7303-i4-10_外国人留学生研究支援事業に係る謝金支給要項)

((再掲) 別添資料 7303-i4-11_外国人留学生研究支援事業に係る謝金支給に関する申合せ)

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7303-i5-1_人文科学府 履修指導の実施状況)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7303-i5-2~4)
(別添資料 7303-i5-2_学習指導の実施状況 (全学・人文科学府))
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
(別添資料 7303-i5-3_社会的・職業的自立を図るための取り組み (講座ごとの教育の工夫))
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 7303-i5-4_履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府で、日本学生支援機構大学院第一種学資金を受給しており、かつ優秀な学生に関しては、学府内での厳正な選考を行い、「特に優れた業績による返還免除」の候補者として推薦している。これとは別に、平成30年度まで本学の博士後期課程奨学金制度により、3名の優秀な学生を選考して年額50万円の奨学金を支給していた。さらに、学府では、大学院生の学会発表に要する費用の全部または一部を経済的に支援することにより、学生の研究活動の活性化に役立てることを目的とする「学会発表支援事業に係る奨学金」を支給している。[5.1]

(別添資料 7303-i5-5_九州大学大学院人文科学府における学会発表支援事業に係る奨学金給付要項)

(別添資料 7303-i5-6_九州大学大学院人文科学府における学会発表支援事業に係る奨学金給付要項に関する申合せ)

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準
((再掲) 別添資料 7303-i4-2_人文科学府シラバス)
- ・ 成績評価の分布表
(別添資料 7303-i6-1_成績評価の分布表_人文科学府 (2019年度))
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料
(別添資料 7303-i6-2_成績評価に関する申立て (様式・掲示文))

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- シラバス上にループリックを掲示し、「到達目標」を明確に掲げるとともに、「GPA 評価」・「成績評価」の方法および基準を明示している。
((再掲) 別添資料 7303-i4-2_人文科学府シラバス) [6.1]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 (別添資料 7303-i7-1_九州大学大学院通則)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7303-i3-2_人文科学府規則)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準 (別添資料 7303-i7-2~5)
(別添資料 7303-i7-2_九州大学学位規則)
(別添資料 7303-i7-3_人文科学府博士学位取扱内規)
(別添資料 7303-i7-4_修士論文審査基準)
(別添資料 7303-i7-5_博士論文審査基準)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7303-i3-2_人文科学府規則)
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7303-i7-3_人文科学府博士学位取扱内規)
(別添資料 7303-i7-6_修士論文に対する申合せ)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 博士論文提出の条件として、専門分野ごとに、全国学会と地方学会における発表数および査読付の論文数が決まっている。修士論文と博士論文に関しては、その審査に他講座の教員を入れ、場合によっては必要に応じて他の教育機関の教員を加えることで、厳正な審査体制を確立している。[7.2]
((再掲) 別添資料 7303-i3-11_博士論文作成条件)

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7303-00-1_人文科学府3ポリシー)
- ・ 入学定員充足率 (別添資料 7303-i8-1_人文科学府入学定員充足率)
- ・ 指標番号1～3 (データ分析集)
- ・ 指標番号6～7 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料番号 7303-i8-2)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修士課程の充足率は、平成28年度は75.0%、平成29年度は81.0%であったが、平成30年度は83.9%と、若干上昇した。これは、平成29年度に行った広人文学コースの拡充等の成果が出たものと考えられる。現在、人文科学研究将来計画委員会において、充足率改善の方策について、短期的視点と長期的視点の双方から検討しているところである。博士課程後期の充足率は、平成28年度113.3%、平成29年度114.6%、平成30年度108.9%で100%を超えている。[8.2]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
((再掲) 7303-i4-3 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 (2016～2018年度))
- ・ 指標番号3、5 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 英語学・英文学講座、独文学講座、仏文学講座には外国人教員が配置されており、単なる語学の授業ではなく、ネイティブによる専門的な授業を受けることが可能である。また、広人文科学府の教員が担当する英語による大学院の授業には日本人学生も参加が可能である。もともと当学府では英語だけでなく、複数の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、アラビア語、サンスクリット語など）を用いた授業をとおして、グローバル人材の育成を行っている。

広人文科学府をはじめとする各講座は、競争的資金の獲得を通して外国人教員を招聘し、海外からの訪問研究員の受け入れを積極的に行い、学生向けセミナーなども開催して教育の国際化を進めている。[A.1]

（（再掲）別添資料 7303-i4-2_人文科学府シラバス）

（別添資料 7303-iA-1_人文科学研究院での国際シンポジウム等一覧）

（別添資料 7303-iA-2_国際事業報告書等）

（別添資料 7303-iA-3_国際交流イベント一覧の web page）

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育に寄与するプログラム
（別添資料 7302-iD-1_社会連携・公開講座_研究・活動_九州大学文学部・大学院人文科学府・大学院人文科学研究院）
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文知を広く社会に普及するために、2009年度から朝日カルチャーセンター福岡教室と提携して公開講座を毎年開講している。また言語運用総合研究センターも言語に関するセミナーや講演会を毎年実施している。このほか歴史学拠点コースでは2007年度から高大連携事業として「九州大学歴史学・歴史教育セミナー」を毎年開催し、大学における研究成果の歴史教育への還元を進めている。[D.1]
（（再掲）別添資料 7302-iD-1_社会連携・公開講座_研究・活動_九州大学文学部・大学院人文科学府・大学院人文科学研究院）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7303-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7303-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
（別添資料 7303-ii1-3）※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14、16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料番号 7303-ii1-4）
- ・ 指標番号 15、17～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文科学府では、修士課程・博士後期課程ともに、少人数システムで各学生の状態に応じた、きめ細かな指導体制をとっている。博士の学位授与数が漸増していることも、その成果の一端を示していると考えられる。[1.1]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 博士後期課程の修了生の場合、近年では、新卒で任期のつかない研究職に就くことは非常に困難になっているが、学生・教員とも協力して情報収集に努め、また、2020年度からは、研究職以外の就職についても積極的にすすめるべく、検討ワーキンググループの発足が予定されている。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 7303-iiA-1_2019年度文学部卒業アンケート結果）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了時のアンケートでも示されているように、専門分野の授業や修士論文が「あなたの教養の向上や今後の職務の遂行に役立つと思いますか。」という問いに対して「大いに役立つ」「いくらか役立つ」という回答が90%超える。このことから、教育に対する満足度はかなり高いとすることができる。[A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。